



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.12
(通巻143号)
平成29年(2017)
9月1日(金)

『小・中連携 交流会』

校長 飯野 博史

8月30日(水)大岡山小学校との第2回「小・中連携 交流会」を実施しました。6年生と中学2年生が交流を深めました。今年度初の試みです。

大岡山小学校の体育館に集まり、まずは「連想ゲーム」に協力して取り組みました。和やかな雰囲気になったところでグループに分かれて各教室に移動し、「中学校生活」をテーマに話し合いをしました。「算数と数学とどう違いますか」「中休みはありますか」「こわい先生はいますか」などの質問に中学生が一生懸命に答えました。最後の全体会で2年生が『この地球のどこかで』を合唱しました。

11月に行う「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」では、今回と同じメンバーで話し合いを深めていきます。

その後、教員同士も研修を通して交流を深めました。今後も大岡山小学校との連携を推進していきます。



◎生徒の活躍

・第40回リバーサイドカップ(バスケットボール)

準優勝 女子チーム

※ 女子バスケットボール部は新人大会シード権を獲得しました。

◎9月の主な行事予定

2日(土) ウィークエンドスクール
4日(月) 全校朝礼
6日(水) ~ 8日(金) 前期期末考査
8日(金) 区連体応援リーダー練習始
11日(月) 学年朝礼、区連体選手練習始
13日(水) 職員会議
14日(木) 連合運動会合同練習会(E組)
16日(土)・17日(日) 碑文谷八幡祭礼
18日(月) 敬老の日

20日(水) 生徒会役員選挙・立会演説会
21日(木) 「性と人権」についての授業(2年)
専門委員会
22日(金) 中央委員会
23日(土) 秋分の日
25日(月) 生徒会朝礼
26日(火) 区連体壮行会
27日(水) 連合体育大会
28日(木) 区連体解団式、避難訓練
29日(金) 水泳指導終

『夏休みを振り返って』 ～戦争や争いのない世界に～

東京では、8月に入って連続21日雨が降るという異常気象でした。日照時間が不足し、農作物などへの影響が懸念されます。天候と同様、世界情勢も不安定でした。バルセロナでテロが起き15人が犠牲になりました。日本海にミサイルが落ち、国同士が威嚇したり、挑発したり、という一触即発の危険な状態が続きました。そんな中、広島・長崎の原爆の日、終戦の日を迎えました。戦後72年、深い傷を負いながら生きている人たちがたくさんいます。異口同音に「戦争は決してしてはいけない」と訴えていました。長崎で被爆した人の記事を読み、涙が止まりませんでした。

■あなたのせいでうちの子は死んだ

「あなたのせいでうちの子は死んだ」。石川県在住の被爆者、松林フミ子さん（84）＝長崎市出身＝は9日、平和祈念式典を終えると午後早く、故郷を離れた。戦後72年、石川に移り住んで60年以上がたった。それでも被爆して亡くなった友人の親から投げ掛けられたひと言は、今も頭を離れない。心の中で返す言葉は「一人だけ生き残ってごめん」。今年も友人の墓参りは、かなわなかった。

■決して消えることのない被爆

1945年8月9日朝。女学校1年で12歳だった松林さんは、長崎市の丘の上にある寄宿舎で共同生活をしていた友人2人に「母が入院している病院に見舞いに行かん？」と誘った。食料不足でいつも空腹。見舞品の卵やカステラの一口でももらえないかと期待した。

午前11時2分。爆心地から南東3キロの勝山国民学校（現・長崎市立桜町小）の前を3人で歩いていると、目の前が突然ピカーッと光り失神した。気付いたときには周囲の建物は崩れ、がれきの山が見えた。あちこちで火災が起きていた。

友人の1人は即死だった。もう1人の「しいちゃん」に意識はあった。たどり着いた母親の入院先は崩壊していたが、母はたまたま自宅のある離島に戻っていて、被爆を免れていた。

戦後に帰った島で、急性原爆症とみられる発熱、下痢、脱毛に悩まされ、寝たきりの生活を3カ月間送った。再開した学校には一緒に生き残ったはずのしいちゃんの姿はなかった。被爆して1カ月後に亡くなったと先生から聞かされた。

墓参りがしたかったが、しいちゃんの親からは「外出に誘ったあなただけ元気で生きているなんて。顔も見たくない」と線香も上げさせてもらえなかった。自分を責め、間もなく逃れるようにして長崎を離れた。

姉を頼り、10代で石川に移り住んだ。ただ、待っていたのは被爆者への差別だった。周囲に反対された結婚を押しきり、長男を妊娠したときも義母から「被爆者からどんな子が生まれるか分からない」と中絶を勧められた。それでも子どもを産み、必死に育てた。

長崎を離れても、決して消えることのない被爆。その現実と向き合うため、8月9日には長崎を訪ねられるようになり、石川で語り部活動も始めた。

今年の平和祈念式典、「あの時代に逆戻りしないかと不安で…」と漏らした。だからこそ、つらい体験も語ろうと決意している。「私は亡くなった友だちに生かされているから」。12歳で原爆の犠牲になった2人のため、核兵器のない世の中を願い続ける。

8月10日「西日本新聞」より （一部変更して掲載しています）

■「ベートーベン第九演奏会」 9月24日（日）3時 めぐろパーシモンホール

私事ではありますが「第九演奏会」にテノール合唱団の一員として出演します。指揮はアンドレア・バッティストーニさん、管弦楽は東京フィルハーモニー交響楽団、ソリストは高橋絵里さん（ソプラノ）、富岡明子さん（メゾソプラノ）、与儀巧さん（テノール）、青山貴さん（バリトン）、合唱は公募によるめぐろ第九合唱団という豪華メンバーです。

ベートーベンが曲に込めた「博愛」「平和」「希望」など心を込めて演奏します。チケットは既に完売となっているそうです。